

西区の地域課題について

1. 人材不足【R4・R5・R6】

2025年以降、介護サービスを必要とする高齢者の増加が見込まれているが、少子高齢化により高齢者を支援していく人材が不足している。

【R4】地域活動に必要な人材(通いの場の後継者、地域ボランティア等)が不足している。

【R5】ボランティアの養成はできているが、活躍の場の確保が不足している。

【R6】少子高齢化による福祉介護分野の人材不足が課題となっているが、相談内容が複雑化しており業務負担が大きくなっている。

→R5の熊本市地域包括ケアシステム推進会議に西区の地域課題として「民生委員をはじめとする地域活動を担っている方々へのバックアップ体制について」提案。

通いの場における支援者の不足と参加者の固定化

- 西区ではH29～R6までに「元気くらぶ」27団体が登録。うち7団体が活動終了した。7団体中4団体はサロン等別の通いの場として活動継続中。

現在活動中の元気くらぶも半数以上がH29から31年に設立、約8年が経過して、参加者が高齢化し人数が減ってきている。

- 高齢者サロンも参加者の固定化が課題となっている。
- 通いの場の代表者や運営に協力している人も高齢化しており、後継者がいないことが課題となっている団体が多い。
- 通いの場への支援として、介護予防サポーター(西区:56名)とのマッチングがR6年度から開始したが活動件数は少ない(西区:R6年度 7件)

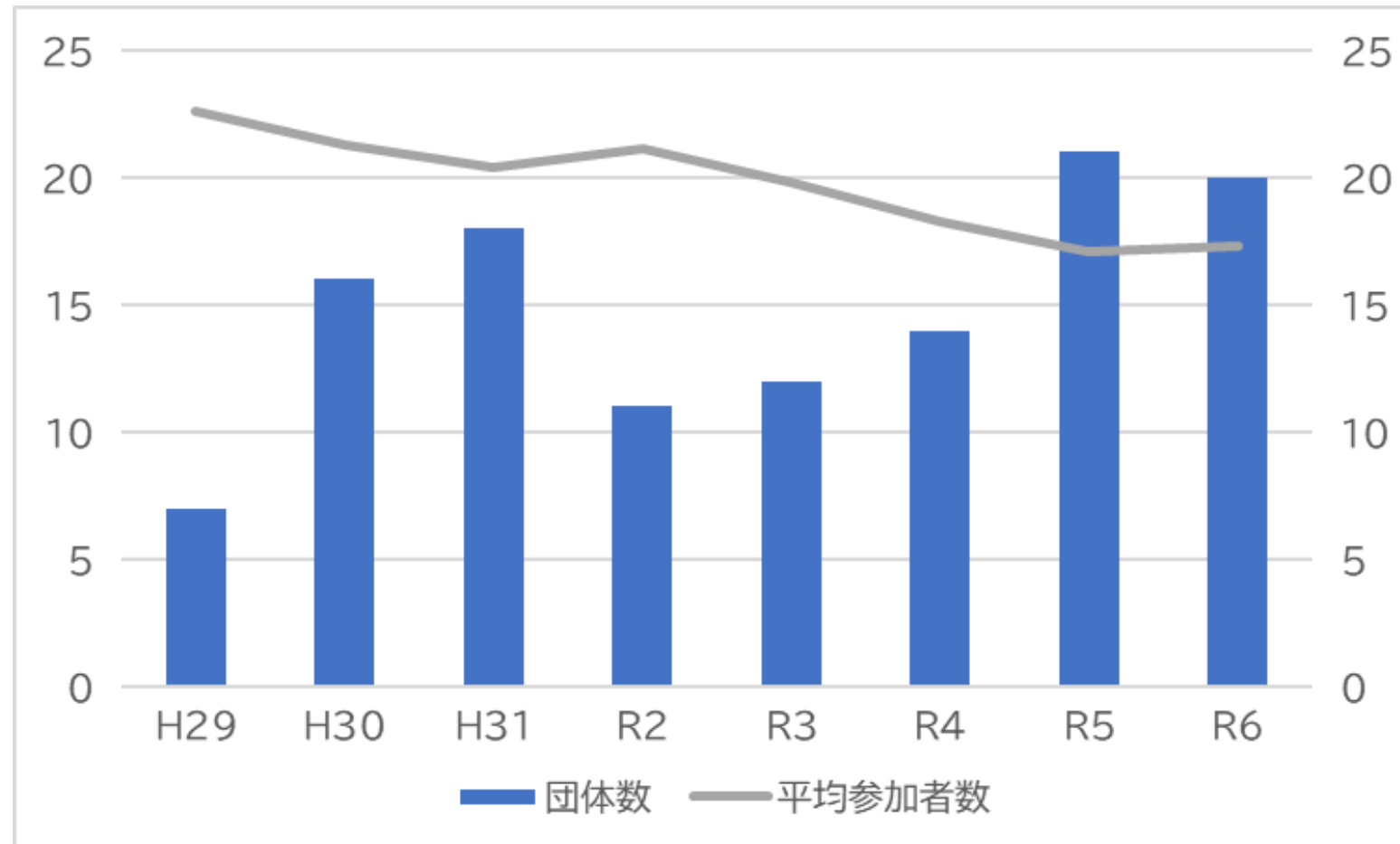
地域の通いの場の種類・比較

	高齢者サロン	元気くらぶ	地域支え合い型サービス通所B
主体	住民等	住民等	住民等
頻度	月1～2回程度	週1回以上	週1回以上
人数要件	無	原則10人以上	下記利用者が5人以上
開設時間/回	2時間程度	1時間程度	3時間以上
利用者	だれでも	だれでも	総合事業対象者または 要支援者 が5人以上
活動内容	原則、自由 ※体操・講話・茶 話会等	市が推奨する運動 いきいき百歳体操 等	体操・運動等の活動 趣味活動等を通じた日中の居 場所づくり
支援	(社協等) 立ち上 げ運営への助言・ 相談	活動費助成 リハ職派遣 立ち上げ支援ス タッフ派遣	運営費・設立更新費を助成 (総合事業)
参加料	0～500円程度/回	0～200円程度/回	食材費やサービススタッフ人 件費等を任意で設定
活動団体数 (R6西区)	46 (月1回以上活動の団 体)	20 (B型元気くらぶを含む)	12

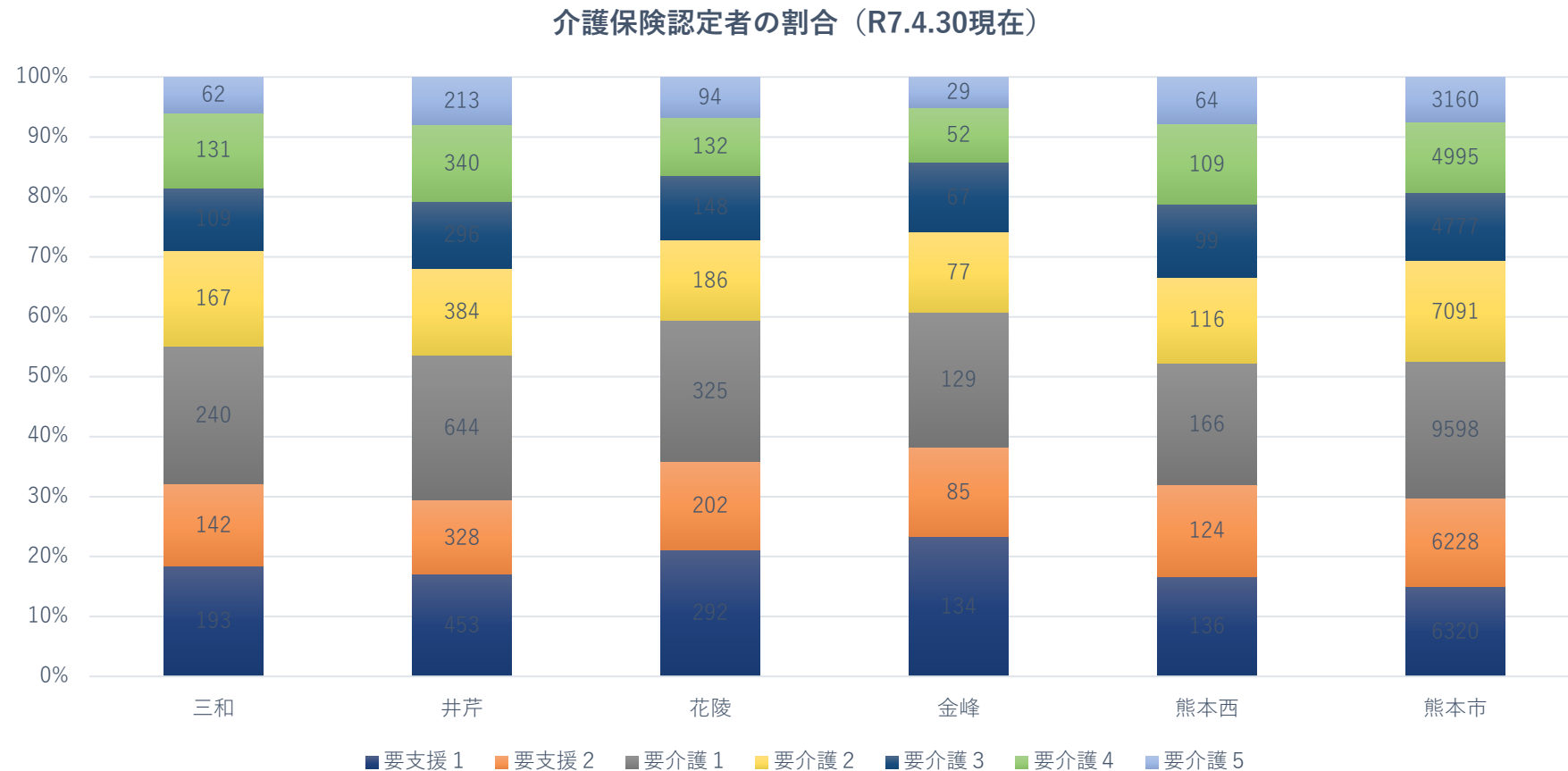
(例) 元気くらぶ登録団体数と平均参加者数の推移(西区)

●登録団体数はコロナ禍のR2年に激減、その後活動再開や新規設立により団体数は増加したが平均参加者数は減少傾向にある。

●各団体の参加者数は8人から30人、西区の平均参加者数は17.25人(R6)



- 熊本市全体の傾向と同じく、西区でも要支援1から要介護1の軽度認定者の割合が高い。
- 要支援認定者の約半数は廃用症候群によるものといわれており、生活機能の回復が期待できる人が含まれる。
- 介護福祉分野でも人材不足が深刻化する中、介護予防・重度化防止の取組が必要。
- 地域主体の通いの場の活動は、介護予防の取組の1つとして今後さらに重要となっている。



民生委員等地域活動における人材不足

民生委員をはじめ地域活動を行っている方々の業務内容が多岐にわたり、業務量も増えている。また、個人情報取扱いや、地域での活動において苦情を言われることもあり精神的負担が大きい。

そのため新たに活動を行おうという人や次の担い手も少なく、民生委員の欠員にもつながっている。

- R7年12月 民生委員・児童委員、主任児童委員 一斉改選
- R7年度から「民生委員協力員制度」がスタート

【西区】民生委員・児童委員、主任児童委員 数(校区別)

校区 (地区)	定数			現員			充足率
	民生委員・児 童委員	主任児童委員	計	民生委員・児 童委員	主任児童委員	計	
池田	28	2	30	24	2	26	86.7
小島	9	1	10	8	1	9	90.0
中島	10	1	11	10	1	11	100.0
松尾	11	1	12	11	1	12	100.0
春日	18	2	20	6	2	8	40.0
河内	11	1	12	11	1	12	100.0
芳野	6	1	7	6	1	7	100.0
城山	17	1	18	15	1	16	88.9
池上	11	1	12	11	1	12	100.0
高橋	2	1	3	1	1	2	66.7
城西	26	2	28	21	2	23	82.1
白坪	22	2	24	22	1	23	95.8
花園	20	2	22	20	2	22	100.0
古町	13	2	15	12	2	14	93.3
計	204	20	224	178	19	197	87.9
						R7.3.24現在	

西区の地域課題について

2. ペット問題【R6】

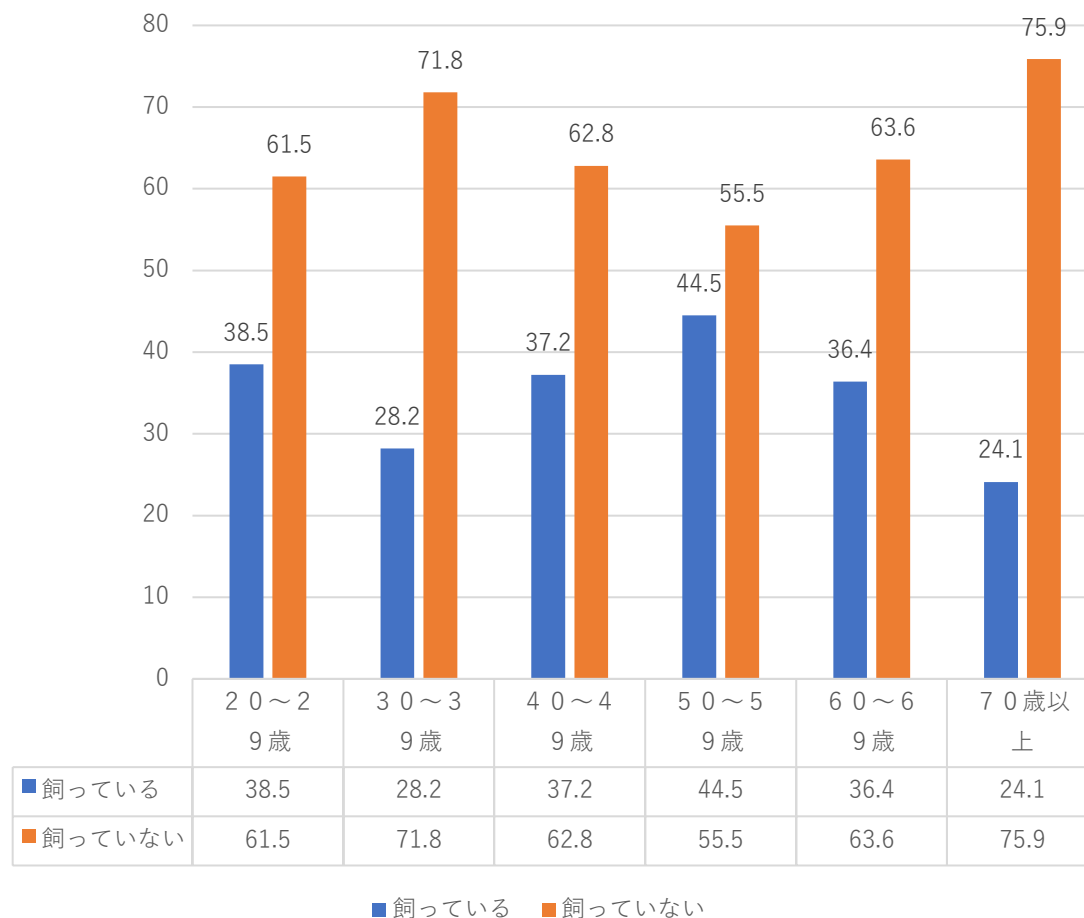
高齢者の増加により、高齢者のペットの相談が増加している。

高齢者にとってペットは心の支えであり、生活の質を高める存在であるが、入院や施設入所による飼育困難な場合の預け先、譲渡先探しや不適切な飼育への対応等の課題がある。

→R6年度熊本市地域包括ケアシステム推進会議で西区の地域課題としてあげたものであり、適切な飼育を促進するための啓発チラシの作成を検討し、啓発するとしており、現在、熊本市動物愛護センターで高齢者のペット飼育についての啓発チラシを作成中。

ペットの飼育数

3000名調査の内、有効回答1939名



- ・ 中高年世代がもっとも飼育数が多い
- ・ ペットブームを経験している団塊の世代や調査時の中高年が65歳以上になっていることから、現時点ではさらに多いと予測される
- ・ 民間データの飼育頭数調査では、犬は減少傾向・猫は横ばいの状態

ペット問題に対する意識①

R7年に公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会が発表した
「在宅療養者におけるペット飼育に関する諸問題と対応方法について」の
調査研究では

病院側でペット飼育に関する問題への課題が
【ない】と回答したのは65.1%であり、【ある】と回答したのは34.9%

地域包括支援センター側でペット飼育に関して問題の有無を問う質問では
【ある】が66.0%で【ない】との回答は34.0%であった

ペット問題に対する意識②

病院では半数以上が課題として捉えていないが、
地域包括支援センターでは半数以上が課題として捉えている



高齢者の在宅問題を幅広く支援している地域包括支援センターが、
実際にペット問題に対する対応を多く行っているため問題意識が高い状況

ペット問題の種類

- 身寄りのいない飼い主の入院・入所や死去による残されたペットの処遇について
- 多頭飼育、虐待などの不適切飼育
- 療養環境の衛生上の問題
- ペット飼育を理由とした入院や入所等の拒否

しかし、高齢者のペット問題では

- お金がない
- 身寄りがいない
- 問題認識が難しい(認知症などの疾患の影響も含め)

さまざまな理由で、
1人での解決が難しい

熊本市動物愛護センターのボランティア

• 子猫のミルクボランティア

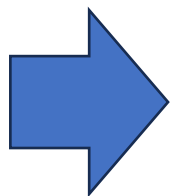
センターに収容されている授乳期の仔猫（およそ1週齢～5週齢）を自力でドライフードが食べることができる（およそ生後2か月齢）まで預かっていただきます。

• 猫の一時預かりボランティア

収容されている人慣れしていない猫をご自宅で一時的に預かって飼育し、人に慣らしていただく活動

• 飼い主のいない猫の不妊去勢手術に関するボランティア

手術の際に、器具や捕獲器の洗浄等をお手伝いしていただく活動



ペットを飼育している高齢者世帯等への活動とは異なる

問題に対する他市の取り組み(先行事例①)

福岡県古賀市がペット問題に対する
先進的な取り組みを行っており、その中の1つが
「古賀市わんにゃんサポーター」

サポーター登録の流れ

- 1 環境課へサポーター登録の申し出を行う
- 2 環境課での養成講習（30分程度）
- 3 登録申請書の提出
- 4 サポーター証交付

活動内容

- ・ イベント等での啓発
「まつり古賀」などのイベントで、動物愛護に関する啓発活動を市役所と一緒にを行います
- ・ ペットを飼う高齢者のサポート
急な入院などの場合に、ペットの一時預け先や譲渡先が決まっていない高齢者を市役所と一緒に訪問し、預け先などのアドバイスをします
- ・ 地域猫活動のサポート
地域猫活動（野良猫の不妊去勢手術や里親探しなど）を行うグループのサポートを市役所と一緒にを行います

問題に対する他市の取り組み(先行事例②)

福岡県古賀市

「ペットと暮らすシニアの備えサポート」

サポートの流れ

- 1 ケアマネジャー等の訪問・状況確認
- 2 「シニアとペットの安心した暮らしのためのチェックリスト」の提出
- 3 サポートが必要な高齢者の訪問

熊本市北区での多頭飼育崩壊（2025年6月）

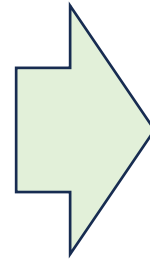
【概要】

- **場所**：熊本市北区
- **発見された猫の数**：約**150匹の死骸**、生存していた猫はわずか12匹
- **発覚の経緯**：猫を預けた元飼い主が安否を不審に思い、熊本市動物愛護センターに通報。6月2日に現場を確認し、崩壊が発覚
- **飼育していた人物**：女性ボランティア
- 動物保護団体の一員として保護活動を行っていたが、**個人で猫を預かりすぎて管理不能に。**
- 預かり時に**金銭を受け取っていた**（例：4万円）
- 飼育環境は劣悪で、猫の死骸が荷物やゴミに埋もれていた

多頭飼育問題とは

多頭飼育問題の3つの影響

飼い主の生活状況の悪化
動物の状態の悪化
周辺的生活環境の悪化



対策の3つの観点

飼い主の生活支援
動物の飼育状況の改善
周辺的生活環境の改善

- 早期発見・早期対応が解決のポイント
- 多くの事例で社会福祉的な支援が必要
- 官民を超えた多様な連携・支援が重要

環境省「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」より

ペットの“多頭飼育問題”
おやっ?と思ったら
アニマルフレンズ熊本の『相談窓口』
へご相談を!

訪問先等でこのようなケースはありませんか?

- ☐ ペットの犬や猫の数が増えている
- ☐ フンなどで、部屋がひどく汚れている
- ☐ 犬や猫の鳴き声やにおいがひどい



【連絡先】
◎熊本市以外：熊本県動物愛護センター「アニマルフレンズ熊本」
TEL：0964-27-8778
◎熊本市：熊本県動物愛護センター「ハローアニマルくまもと市」
TEL：096-380-2153

今後の取り組み

- 啓発チラシを用いて、高齢者世帯への啓発
ペットを飼っている、これから飼おうとしている高齢者へ備えや心構えについて啓発
- 多頭飼育崩壊予防のため、動物愛護センターとの連携
訪問先、地域で問題を抱えた世帯を発見したら情報提供する

今、困っている個別ケースの支援について
なにかできることはないか？